



ホームゲームでの パラスポーツ体験会

障がいのあるなしに関わらず、一緒にスポーツを楽しめる社会づくりのきっかけになることを目指して、（市営陸上競技場開催分を除く）全ホームゲームで「パラスポーツ体験コーナー」を実施。毎回多くの子供たち、年配の方々、そしてトリニータの選手も交え、様々な種類の「障がい者スポーツ」を楽しんでいただくことができました。実際に体験することでパラスポーツへの興味を育み、多様性を尊重し合える優しい社会づくりに取り組んでいきます。

活動場所 : 昭和電工ドーム大分

取組テーマ : ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : 企業／NPO／学校／行政

協働者名 : サインポスト(株)、大分大学アダプテッドスポーツクラブ、
大分県障がい者体育協会、大分県ボッチャ協会、
大分県アーチェリー協会、大分県車いすバスケットボール連盟、
大分県フロアホッケー連盟、NPO法人日本パラ・パワーリフ
ティング連盟、NPO法人SMIS、NBU日本文理大学サッカー部、
FC九州バイラオール、杵築市パラアスリートクラブ

活動で工夫した点

競技に興味をもち、より多くの人に体験してもらえるように、体験会の周辺にバナーを設置するほか、SNS等で体験会の様子を積極的に発信しました。毎回選手にも体験に参加してもらうことで、選手の参加時間にはその様子を目見ようと沢山のサポーターの方に集まっていただき、取組を紹介することができました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

競技ごとに必要となる空間が違い、体験する事で周りのお客様にボールが当たったりご迷惑をかけることの無いように、毎回会場を調整して実施しました。多くの人に参加してもらうため当初屋外での体験会を予定していたものの、雨天で急遽場所をドーム内に移動して実施することもありました。競技ごとに必要な準備を各競技団体のの方に丁寧にヒアリングし、運営担当と調整することでそれぞれの体験を楽しんでもらえる環境を作りました。

クラブや地域の活動後の変化

この活動をシーズンを通じて行うことで、クラブ内のスタッフもパラスポーツを身近に感じ、選手が参加する小学校を訪問してのサッカー教室にアンパティサッカー体験を組み込むなどのチャレンジにも繋がりました。スタジアムだけでなく地域にも体験を広げ思いやりの気持ちを育むことに繋がっていると感じます。



協働者の声

協力いただいた各競技団体の方からは、「普及のために、競技団体や自治体主催でイベントを開いてもこんなに多くの人に体験してもらえることはなかなかない」「スタジアムを使わせてもらい、沢山のの人に協議を体験し楽しみながら関心を持ってもらえることができました。」「競技の事を知らない障がい者の人にも、この機会に体験した人づてで伝わることもあると思うし、もし自分が将来障がいを持つことになってもスポーツを楽しめることを知ること希望が持てる。」等と評価いただき、次回以降もぜひ参加したいといただきました。

参加者の声

実際に体験した方からは、「競技は知っていたけど体験したことが無かったので体験できてよかった。」「やってみたら難しかったけど楽しかった」「パラアスリートの人の技術を目にして、カッコいい・応援したいと思いました」と、体験を通じて沢山の感動と笑顔を生むことができました。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

大分はパラリンピックの父といわれた中村裕先生がパラスポーツを根付かせ、毎年大分国際車いすマラソン大会が開催されるなど、パラスポーツが身近な県です。パラリンピックに向けてトリニータも後押ししていきます！

補足

大分トリニータのホームスタジアムである昭和電工ドーム大分は、入場ゲートと観戦席に段差が無く、車いす席を設ける等、バリアフリースタジアムになっています。2020年からは、高齢者や障がい者、足が不自由な方、妊婦・乳幼児連れの方等にも安心して観戦できるよう、ホーム側自由席の最上段に優先席（ハートフルシート）を設けました。お互いの事を思いやれるインクルーシブ社会の実現を目指してさらに取り組んでいきます。